

3 学校におけるキャリア教育に関する総合的研究

－児童生徒の社会的自立に求められる資質・能力を育むカリキュラムの在り方について

研究代表者 三宅 征夫（教育課程研究センター基礎研究部 部長）

①研究の趣旨，ねらい

本研究では、学校におけるキャリア教育の定着と充実に向けた方策を検討することによって、職業観・勤労観やキャリア・デザイン力（将来設計能力）、自己肯定感やコミュニケーション能力など、児童生徒の社会的自立に求められる資質・能力を育むカリキュラムの開発の在り方を明らかにすることをめざしている。学校におけるキャリア教育は、2003年に文部科学省が発表した「キャリア教育総合推進計画」に基づいて、包括的・系統的なキャリア教育が推進されてきた。その際、学校におけるキャリア教育のカリキュラム開発にあたっては、本研究所生徒指導研究センター刊行の研究報告書『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』（2002）の成果が広く活用されている。本研究では、これらの研究成果に基づきながら、今日までの学校におけるキャリア教育実践状況を評価し、キャリア教育の教育的意義を検証する。さらに、先進的な実践事例に比して、一般の学校にはキャリア教育がなお普及していない現状を踏まえ、学校におけるキャリア教育のカリキュラム開発に向けた支援の在り方を検討する。

研究期間は、平成19年度～平成21年度の三カ年を予定している。

②研究成果の概要

- 平成19年度は、1. 研究委員会、2. 外国調査研究班、3. 国内調査研究班の三つの研究班を組織し、各班の研究計画に基づき、研究を実施した。
- 研究委員会では、キャリア教育に関するこれまでの施策推進の状況、研究動向の分析に基づいて、学校におけるキャリア教育の定着に向け、今後の研究課題を検討した。
- 外国調査研究班では、欧米、東アジア等におけるキャリア教育に関して、特徴的な取組事例（アメリカにおけるコンテクスチュアル・ラーニング、イギリスのキャリア教育やキャリアガイダンス、EU諸国におけるキャリア教育等）を個別に取り上げて検討し、各国の特徴や課題を明らかにした。
- 国内調査研究班では、都道府県・政令指定都市の教育センターが作成したキャリア教育に関する研究や実践の手引き、研修資料等を収集するとともに、これら教育センターにおけるキャリア教育担当者への質問紙調査を実

施した。さらに、特に特徴的な取組や研究を行ってきた教育センターの担当者を協力委員としてグループ・ディスカッションを実施し、学校におけるキャリア教育の推進に向けた課題と方策を検討した。これらの成果を中間報告書（『キャリア教育の現状と課題－教育センターにおける学校支援に向けて－』）にとりまとめた。

- 国内調査研究の結果、これまでのキャリア教育推進の成果として、主に次の点が確認された。1. 学校におけるキャリア教育の先進的な事例が研究実践されてきたことによって、キャリア教育のイメージが具体的になった、2. 中学校への職場体験の普及によって、社会体験活動の意義や成果が共有されつつある、3. 育てたい力に基づいたカリキュラム開発の在り方が研修等でも取り上げられるようになってきた。
- 今後のキャリア教育の推進に向けて、次の課題があることが明らかとなった。1. キャリア教育の意義への理解は進みつつあるが、学校（特に小学校）では、喫緊の教育課題として意識されていない。また、中学校以降においても、キャリア教育を職場体験・職業教育としてのみ捉える傾向がみられ、教科学習も含めた学校の教育活動全体を見直す視点として活用されていない。3. 各学校におけるキャリア教育に関するカリキュラム開発のための支援体制が整っていない。4. キャリア教育の実践による子どもの成長を評価する方法が確立されていない。
- キャリア教育の推進・学校における定着に向けた上記の課題を解決するため、学校への普及や教員研修の方法、学校における協働体制づくり、カリキュラム・アドバイザーやコーディネーターの活用など、学校支援の方策案を提起した。これらの案の有効性については、今後の研究で検討を進めていく。

③中期目標との関連性

- 今後充実が望まれる分野にかかる教育課程の実施状況等の把握・分析及び当該分野における指導方法や教材等の在り方（中期目標期間中に重点的に取り組むべき課題）
- 社会の変化に応じて新たに要請されている教育内容の円滑な実施に資するための調査研究を推進する。－社会・経済の変化に対応できる自立した個人を育成するために、新たに教育することが要請される分野（キャリア教育）の指導方法や教材に関する研究を推進する。－（教育課程研究センター基礎部の活動目標【目標3】）。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

- 都道府県・政令指定都市の教育機関（教育センター・研究所等）において、平成17～18年度に実施されたキャリア教育に関する研究課題・報告書名
- 同機関における平成18～19年度のキャリア教育に関する研究の実施状況
- 同機関へのキャリア教育の現状や今後の課題についての意見調査

⑤今後の研究予定

- 学校におけるキャリア教育のカリキュラム開発を支援するための手引きやモデル・プランの作成に向けて、枠組の検討を行う。
- 外国研究班では、キャリア教育に関する各国の関連資料を翻訳するとともに、各国の特徴的な取組を紹介する中間報告書を作成し、わが国のキャリア教育の実践において参照可能な基礎資料を提供する。
- 国内研究班では、中間報告書にまとめたキャリア教育推進に向けた課題と解決に向けて提起した方策に関して、小・中学校におけるカリキュラム開発の具体的な取組を事例として分析することによって、方策の妥当性を検討する。平成20年度は、小・中学校における実践事例を取り上げ、カリキュラム開発に携わる教員への聞き取り調査を実施して、学校における実践上の課題を明らかにする。

⑥キーワード

- (1) キャリア教育 (2) 社会的自立 (3) 資質・能力
- (4) カリキュラム開発 (5) 学校支援 (6) 教員研修
- (7) 国際比較 (8) 体験活動

⑦本研究の研究報告書

- 中間報告書Ⅰ キャリア教育の現状と課題－教育センターにおける学校支援に向けて－

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

- 国立教育研究所生徒指導研究センター（2002）『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』。
- 国立教育政策研究所編（2007）『キャリア教育への招待』東洋館出版社。